

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会

2011年度
事業計画書
予算書



バングラデシュ・ダッカのスラム地区にある学校に通う女の子と、その妹
(川口恭子撮影)

JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE
(JOCS)

公益社団法人 **日本キリスト教海外医療協力会**

東京事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-33
TEL : 03-3208-2416 FAX : 03-3232-6922
関西事務局 〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30
大阪聖パウロ教会 3階
TEL : 06-6359-7277 FAX : 06-6359-7278
URL <http://www.jocs.or.jp>

目次

1. 新年度の抱負	1
2. 2011年度計画	2
3. 海外諸活動	4
3-1 ネパール	4
3-1-1 細井さおりワーカー	4
3-2 バングラデシュ	5
3-2-1 宮川真一ワーカー	5
3-2-2 山内章子ワーカー	6
3-2-3 岩本直美ワーカー	7
3-3 タンザニア	7
3-3-1 倉辻忠俊シニアワーカー	7
3-4 パキスタン	8
3-4-1 青木盛ワーカー	8
3-5 カンボジア	9
3-5-1 諏訪恵子ワーカー	9
3-6 短期派遣	9
3-7 研修生・奨学金支援	9
3-8 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）	9
4. 国内諸活動	15
4-1 国内活動全般	15
4-2 ワーカー育成活動全般	15
4-3 東日本大震災被災者支援	16
4-4 広報全般	16
4-5 募金	17
4-6 使用済み切手運動	17
4-7 関西事務局バザー	18
4-8 50周年記念事業	18
5. 運営会議	18
5-1 社員総会	18
5-2 理事会	18
5-3 委員会	18
5-4 公益社団法人への移行	20
5-5 評価	21
6. 事務局	21
7. 予算書	23
収支予算書（正味財産増減ベース）	23
収支予算書内訳表（正味財産増減ベース）	25
収支予算書総括表（資金収支ベース）	27
公益目的事業会計 収支予算書（資金収支ベース）	28
収益事業会計 収支予算書（資金収支ベース）	31
法人会計 収支予算書（資金収支ベース）	32

1. 新年度の抱負

JOCS の新しい半世紀に向けて —その第一歩を歩み出すために—

<会長 小島莊明>

昨年度は、創立 50 周年にあたり、バングラデシュからブラザー・フランクをお迎えしてもつことのできた記念感謝礼拝やリトリートの時をはじめ、各地区 JOCS の特別行事の開催などを通して、多くの会員や支援者の方々とともに、創立以来の数々の恵みを思い起こしつつ、アジア・アフリカの貧しく小さくされた人々と「ともに生きる」ことを許して下さった主に感謝の祈りをささげることができました。

また、JOCS 奨学生たちの働きぶりを描いた DVD も制作され、私たちのささげたささやかな奨学金が現地の若い人々の学びのために支えとなり、人々のいのちを救う働きとなって天に大きな宝を積んでいる有様を目の当たりにすることができました。

一方、JOCS は、これまで、新しい公益法人になるための産みの苦しみを重ねて参りました。その甲斐あって、新年度の開始とともに公益法人としての第一歩を踏み出すことが出来ることとなりました。これには、総主事をはじめ事務局の諸氏の大いなる忍耐と労苦の下、当局との粘り強い交渉があったことを、感謝をもって銘記しておきたいと思います。しかしながら、公益法人自体に意味があるのではなく、私たちの真に願うべきは、JOCS の働きが我が国の「公益」となるのみならず、この世界で、いまもっとも小さくされ、いのちを危うくするさまざまな悪の力に脅かされている人々の「公益」となることでなければならないということを強調しておきたいと思います。

そのためには、JOCS 出発の原点であったアジアの人々に対する「贖罪」の思いをさらに深めつつ、一層強く、かつ具体的に、「平和をつくりだす」働きが求められているというべきであります。それは、私たちのワーカーや、ワーカーを通しての会員一人ひとりと、現地の人々との交流から始められるはずで、ブラザー・フランクが示して下さったように、異なる文化や信仰をもつ人々との挨拶と対話からはじめようではありませんか。何よりも、主が、そこでこれらの人々のただなかにあって働いてくださっているからです。また、JOCS 奨学生たちとの交流や、彼ら同志の仲間づくりを促進する手立ても求めてみたいと思います。

さらに、今年度は、「プロジェクト・りとる」に関連して、使用済み切手の回収運動や「ワンコインわかちあい」運動を通して、日本の子どもたちに、アジア・アフリカの「友だち」の問題を考えてもらう運動を展開しはじめることを訴えたいと思います。これによって、新しい JOCS の次の半世紀を担う人々が生まれてくることを願っていきいたいと思うからであります。

会員の皆さまの一層のご支援をお願いするとともに、新しい半世紀も JOCS にかかわる内外のすべての人々の上に主の御祝福と御導きが豊かでありますようにと祈ります。

2. 2011 年度計画

<総主事 大江 浩>

“平和をつくり出す人たちは、幸いである。彼らは神の子と呼ばれるであろう
(口語訳：マタイによる福音書 5章9節)”

● 人々がつながり、支えあうコミュニティを

世界は、先進国と途上国の協働による国連ミレニアム開発目標（MDGs：ゴールは2015年）を約束しました。しかし、様々な取り組みが進むものの目標達成の前には多くの課題や困難が立ちまわります。JOCSは、国際協力NGOセンター（JANIC）の正会員として「世界の『貧しい』を半分に。MDGs 2015 キャンペーン」に参加しています。命を脅かす貧困の問題は、地球規模の共通課題です。私たちは、与えられた場で、一人ひとりの尊い命を守り支えていくことを通して、平和をつくり出していきたいと思います。

一方国内でも、つながりを失い希望の見えない日々を暮らす人々がいます。生き難い状況と命の危機は国境を越えた問題です。飢え渴きは、水や食料のことにのみ留まりません。人々がつながり、支え合う豊かなコミュニティが広がっていくことを切に祈っています。

● “祈りと働き” ～新しい50年へ

JOCSは、昨年度に創立50周年を迎え、「新しい50年」へと歩みだしました。半世紀にわたりJOCSが活動を継続しえたのは、多くの方々のお祈りとお支え、そして途上国の同胞の協力の賜物です。私たちは「みんなで生きる」表紙写真展で、ワーカーの活動する現場の人々の笑顔や豊かな表情と再会し、そのことを改めて確信した次第です。アジア・アフリカの草の根の人々に励まされて歩んできたこれまでの時に感謝します。

私たちは、50周年記念感謝礼拝やトリートでのブラザー・フランク（バングラデシュのテゼ共同体）のメッセージから、“祈りと働き”の大切さを今一度深く心に刻みました。そしてブラザー・フランクは、友人である少数民族とイスラム教徒の木彫り人形を贈ってくださいました。「一致」のためのシンボルとして。様々な分け隔てを乗り越えて、共に生きるための働きを強めていきたいと思います。

● “貧しく弱く小さくされた人々” と共に生きる

第1に、JOCSは、「今後5年間の方向性」（2006-2010年度）の理念に沿って、これからも途上国の貧しくされている人々と共に生きる働きを続けていきます。私たちはワーカー派遣を通して人々の声を聴き、人々の命と向き合います。また活動からの学びを多くの方々と分かち合い、使命の実現のために力を尽くします。

第2に、私たちは、昨年度制作した50周年DVDから、現地の保健医療スタッフの献身的な活動やワーカーの働きの大きさを改めて学びました。研修生・奨学生支援の意味を、より多くの方々に知っていただき、「協力」という形でご参加いただけるよう努めたいと思います。

第3に、「プロジェクト・りとる」（協働プロジェクト）の最初の活動であるバングラデシュでの学校保健教育（2010年度から5ヵ年計画）が始まりました。子どもたちの健康への意識向上と保健行動の改善が、現地主体の事業として豊かに根付いていくよう祈っています。

● “公益社団法人” にふさわしい団体として

JOCSは、昨年10月22日に「公益社団法人」認定申請を行いました。申請準備の過程は、定款・組織の運営、事業と会計など様々な角度から総点検をする機会となりました。JOCSの公益性の高さが認められたことは、途上国の医療の乏しい地域の人々と共に生きることの大切さが証明されたことでもあります。JOCSは今年度より公益社団法人としてスタートをします。お支えくださる方々の信頼とご期待に応える団体として、さらに力を尽くしていきたいと思えます。

JOCSは、50周年記念感謝礼拝で、8名の50年継続会員の方々に感謝と敬意を表しました。私たちの活動は先達の尊いご苦勞、そして会員やボランティアお一人おひとりの献身的な協力によって成り立っています。

私たちの力は限られており、使命の実現には、主イエスに連なる全ての人々のご理解ご支援が欠かせません。JOCSは、主に従う器として、これからも教会や学校、様々なキリスト教団体と共に歩みます。

<重点課題と取り組み>

(1) 貧しく、弱く、小さくされた人々と共に生きる。

- ① 諸事業は、今年度も引き続き、旧5ヵ年計画（06-10年度）の方針に基づいて進める。
→活動の焦点：女性と子ども、障がい者、少数民族、HIV陽性者
- ② 新5ヵ年計画タスクのもと、新しいアクションプランを策定する。
- ③ ワーカーの育成、新しいワーカーの発掘に努める。
- ④ 新定款に基づき、基本方針と実施要綱（P&P）を改訂する。
- ⑤ 2012年度（2012年末）に開催予定の海外保健医療協力者会議への準備を開始する。

(2) 事業の充実を図る。

- ① 4ヵ国へ、計9名（短期・シニアを含む）のワーカー派遣を通して、地域に根ざし、人間に根ざした保健医療協力活動を行う。
- ② 研修・奨学生支援を通して、現地の保健医療従事者の技術向上と協力団体の能力強化に寄与する。
 - ・ 2011年度支援予定：6ヵ国74名
 - ・ 奨学生のモニタリングを通して、活動状況の調査と成果の確認を行う。
 - ・ 今後の奨学金支援事業のあり方を考える。
- ③ 「プロジェクト・りとる*」（協働プロジェクト）を推進する。
（* Project “LITTLE” = “Living together with the People”）
 - ・ バングラデシュでの学校保健教育（現地協力団体：BDP*）は、ミルプール地区4小学校・ガジプール県プーバイル地区10小学校の計14校／全生徒数約3,000人を対象

に実施する。 (*BDP = Basic Development Partners)

- ・ 新しい協働プロジェクトの可能性を探る。
- ④ JOCS50周年関連事業を実施する。
→実施事業：記念誌の刊行、映画会、スタディツアー、「みんなで生きる」表紙写真展
- ⑤ 新しい半世紀の第1歩＝公益社団法人1年目を契機として、国内事業の充実、会員増強・募金拡大を図る。地区JOCS全体会を開催する。

(3) 組織の活性化に努める。

- ① 公益社団法人にふさわしい団体として、公益性と信頼性の高い組織運営を行う。新理事会の発足と同時にJOCS運営協議会をスタートさせる。
- ② 広報改革タスクの提言を踏まえ、広報活動・情報発信を充実させる。
- ③ 単年度収支差額の縮小、事業構造の変革を視野に入れ、中長期的な財政健全化に務める。
- ④ 将来の事務局の移転の可能性について検討する。
- ⑤ 日本キリスト者医科連盟(JCMA)、教会、キリスト教学校・諸団体との連携を強化する。

3. 海外諸活動

[3-1] ネパール

[3-1-1] 細井さおりワーカー (看護師)

<ワーカー 細井さおり>

派遣先：PFN (Prison Fellowship Nepal)

- (1) 「平和を愛する子どもたちの家」4カ所：カトマンズ (ラジンパット、ゴタタール)、ポカラ、チトワンでの活動
 - ① 子どもたちと過ごし、喜びや悲しみを共有する。
 - ② スタッフと共に子どもたち一人ひとりの可能性を見つけ伸ばせるよう援助する。
 - ③ 健康管理、保健教育、疾病時の世話。
 - ④ スタッフのサポート。
- (2) PFN全体の活動をスタッフと共にすすめる。
 - ① 受刑者や出所者の職業訓練、識字教育、農業指導、図書館プロジェクト、必要物品の提供。
 - ② ボランティアトレーニング。

スタッフと子ども一人ひとりについてその時々々の状況を確認し、それぞれの子どもの可能性をとらえ伸ばせるような環境を作り、また、問題があれば解決の道を共に考える。

受刑者の方々の日々を祈りつつ支える。

[3-2] バングラデシュ

[3-2-1] 宮川眞一ワーカー (医師)

<ワーカー 宮川眞一>

派遣先：CHC (Christian Hospital Chandraghona)

中断していた病院業務・システム改善を継続すると共に、地域保健医療 (Community Health Project: 以下 CHP) での活動を徐々に再開し、CHC の質の向上に協力したい。

(1) 病院・診療業務・看護教育

- ① メタボリック外来：入院治療システムの再検討 (特に糖尿病) と実施。患者ハンドブック改良・記録の解析。
- ② 病棟システム・意識改善：インドのベローア医大で研修を終えたスタッフの経験・知識を、どのように具体化していくかが課題である。
- ③ 救急医療環境整備・教育：中間医療施設として救急処置用機器の有効活用。看護学生・スタッフへの BLS (Basic Life Support)、ACLS (Advanced Cardiac Life Support) 教育・トレーニングを定期実施する。
- ④ 経済効率：①及び救急でのコストシステムの見直しなど。
- ⑤ 看護教育：「なぜ」「何を」「いかに」の思考訓練。心理的アプローチを含む「ケア」の姿勢のトレーニング。救急処置の実地教育。
- ⑥ 精神保健領域：バングラ版うつ病の心理テスト活用のシステム化。より患者心理に配慮した看護アプローチ教育。医師の診療姿勢の改善。自殺企図者の原因リサーチ継続。
- ⑦ 栄養教育・病院食：小児栄養教育及び入院患者へ栄養指導の教育・システム化。
- ⑧ 輸血及びインフォームド・コンセント：a) 適用の是非の検討、b) スクリーニング、c) インフォームド・コンセントの討議。HIV スクリーニング検討。
- ⑨ リハビリテーション分野：リハビリ回診。退院後の患者 ADL も視野にいれた訓練、看護・医療ケア教育。運動療法のメニュー作成。
- ⑩ 上部消化管内視鏡検査：機器導入後の定期検査の実施、プロトコール作成。

(2) 地域保健医療 (Community Health Project : CHP)

現在進行中の活動に、徐々に復帰参加したいと考える。特に生活習慣病の予防医学分野の展開を考えたい。又、主眼は、水・トイレなどの衛生環境整備と共に、TBA (Traditional Birth Attendant、伝統的助産師) との協働を含め、周産期死亡率をいかに下げていくかに移っていくであろう。

(3) 医療廃棄物問題

病院環境委員会の定期開催。近隣住民対象の環境問題討議とキャンペーン開催。

(4) その他

CHC 周辺地域に於ける社会的諸問題の把握と活動の可能性の模索。

[3-2-2] 山内章子ワーカー (理学療法士)

<ワーカー 山内章子>

派遣先：マイメンシン テゼ共同体

2011年5月6日～8月5日 報告会活動

2012年1月 2期目赴任

2012年1月～3月活動計画

活動範囲が広いため、初めの3ヵ月は現地評価を行う予定である。

- (1) マイメンシン県：CCH (Community Center for Handicapped、障がい者センター) 及びムクタガチャ支部
 - ・ 各種プログラムの状況確認と情報収集
 - ・ 2期目におけるニーズの確認
- (2) ダッカ県
 - ① Nyanogor のデイケア
 - ・ プログラムの状況確認と情報収集
 - ・ 参加児の成長評価
 - ・ 責任者、及び訓練の責任者の有無の確認
 - ・ サポート形態を確認するとともに、ニーズに合ったスタッフの教育を開始
 - ② MC (Missionary of Charity) Mission (マザーテレサのミッション)
 - ・ フォロー中の児の成長の評価と理学療法短期ゴール設定
 - ・ スタッフ教育の再開
 - ③ Shanti Nir (韓国人女性主催のデイケア)
 - ・ プログラムの状況確認と情報収集
 - ・ デイケア参加児の成長の評価と理学療法短期ゴール設定
- (3) タンガイル県：Kailakuri Clinic
 - ・ フォロー中の児の成長の評価と理学療法短期ゴール設定
- (4) ディナジプール県：Dhanjuri Leprosy Center 内ホステル
 - ・ 入所児の成長の評価と理学療法短期ゴール設定
 - ・ スタッフの活動状況の評価と活動範囲拡大の可能性の現地評価
 - ・ 外来専門リハビリテーション施設の準備
- (5) ラッシャヒ県：ブタハラ村、ボラル村 (施設なし、2名のスタッフがフィールド活動している)
 - ・ スタッフの活動状況の評価
 - ・ 活動形態の評価のための現地訪問

[3-2-3] 岩本直美ワーカー (看護師)

<ワーカー 岩本直美>

派遣先：マイメンシン テゼ共同体

マイメンシンのラルシュコミュニティの生活と働きを支援する。

(1) コミュニティ運営

- ・ 経験者を採用し、事務会計管理の質を高める。
- ・ 各職務内容を見直し、アシスタントの配置や動き方を再検討する。
- ・ 各ミーティングの持ち方を再考し、質を高める。
- ・ メンバー相互の、コミュニティ内での関係の質を高める。
- ・ 知的ハンディを持つメンバーたちの個々のニーズや望みを知り、彼等の最大の力を引き出せるように計る。

(2) アシスタント関連

- ・ 給与規定の見直しを行う。
- ・ 国内外での養成プログラムを強化する。

[3-3] タンザニア

[3-3-1] 倉辻忠俊シニアワーカー (医師)

<シニアワーカー 倉辻忠俊>

派遣先：タボラ大司教区保健事務所、イプリ保健センター

目的は、タンザニア連合共和国タボラ州の子どもの健康を回復し、平和に暮らすことができるよう協力することである。タンザニアは、WHOにより、世界196の国と地域の中で特に母性・新生児・小児の健康対策の強化が必要な7つの国のうちの1つに指定されている。タボラ州はそのタンザニアの中でも、全国26州の内、保健医療施設および医療従事者の数が最も少ないワースト2であり、特に小児科専門医は一人もいない。その環境において、保健医療政策、プライマリーヘルスケア、および直接的な医療協力を行うことにより、目的達成のきっかけを作る。

活動は、3つに分かれる。

- (1) タボラ大司教区傘下の10の保健医療施設の管理運営協力・指導、およびそれを統括する大司教区保健事務所の管理運営協力指導
- (2) タボラ大司教区傘下の10の保健医療施設の小児保健医療改善協力、特にイプリ保健センターの強化
- (3) タボラ州保健事務所とタボラ大司教区保健事務所の相互協力促進

月・火・土をタボラ州タボラ町で、大司教区保健部事務所勤務とし、同時にタボラ州保健事務所との関係強化および国立キテテ病院小児医療改善協力も行う。

水・木・金をタボラ州イプリ郡で、イプリ保健センター勤務とする。とくに小児医療の On the job training、医療記録システムの改善、臨床検査室の改善強化を行う。医療記録システムは、イプリ

保健センター長が既に手がけていたものを実施強化し、科学的医療評価に耐え得るものとする。
来年度は国立キテテ病院を含む他の施設への展開も目指す。

保健施設職員、地域住民の健康理解、健康獲得意欲増加のため、WHO あるいは国連が定めている国際〇〇デーや〇〇週間を有効に用いたイベントを行う。

4 半期ごとに 10 施設の活動および管理運営状況を視察し、保健医療データを集積し、評価したうえで次の四半期の方針を決める。

各施設での日々の礼拝や集會に努めて参加し、靈的なつながりと共に人間関係の形成にも努める。

[3-4] パキスタン

[3-4-1] 青木 盛ワーカー (医師)

<ワーカー 青木 盛>

派遣先：St. Rafael's Hospital (聖ラファエル病院)

秋から第二期赴任の予定。基本的に第一期と同じ活動を行う。新たにスタッフおよび学生への教育、患児の家庭訪問を行いたい。

(1) St. Raphael's Hospital (聖ラファエル病院) での業務

① 外来

- ・ 月曜日から土曜日の診療。その他時間外の診療。

② 小児の入院

- ・ 診察、治療にあたる。
- ・ 小児患者の入院に対応できる設備や、児の観察の改善など図る。

③ 新生児室

- ・ 診察、治療にあたる。
- ・ スタッフへの教育（新生児の生理、疾患、看護のポイントなどについて）を始める準備を行う。

④ 近隣の診療

- ・ 一期目の途中から行けなくなった近隣地域への出張診療の再開を検討する。
- ・ まだ入院治療が必要と思われる児が家族の要請で退院した場合や、未熟児のフォローのために来院することが困難な家庭のために家庭訪問を行いたい（課題：家族の受け入れ、同行スタッフの確保など）。

(2) 奨学金

新規申請者の支援。

(3) プロジェクト費

保育器、その他の医療機器購入にあてる。

[3-5] カンボジア

[3-5-1] 諏訪恵子ワーカー (看護師)

<ワーカー 諏訪恵子>

派遣先：RENACER, Walk with Women

2011年4月20日～7月19日 報告会活動

2008年3月より3年の任期での、カトリック礼拝会が中心となって設立したカンボジア政府登録NGO「RENACER, Walk with Women (RWW)」(日本法人は「NPO法人 レナセール・女性とともに歩む会」)の女性シェルターにおける活動が2011年2月末で終了した。

今年度は、4月半ばより約3ヵ月間、日本国内の教会や学校関係の場で、カンボジアのRWW・女性シェルター活動を通して経験したこと・学んだことなどを報告し、分かち合う。

なお、諏訪はJOCSワーカーとして8月末までJOCSに在籍する予定である。

[3-6] 短期派遣

短期ワーカーとして、昨年度に引き続き乾眞理子医師を、バングラデシュのタンガイル県カイラクリにあるカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト(カイラクリ・クリニック)に短期派遣する予定である。1回の派遣任期为3ヵ月とし、2011年度内に2回の派遣を計画している。

タンザニアのタボラ大司教区には、2011年度も宮尾陽一医師を派遣予定である。

ネパールのHDCSチョウジャリ病院には、楢戸健次郎医師を派遣予定である。

[3-7] 研修生・奨学金支援

2011年度は、インドネシア14名・ネパール21名・バングラデシュ3名・インド5名・ウガンダ20名・タンザニア11名の計74名を支援する予定である。詳細は**2011年度研修生一覧**(10～14ページ)を参照。

[3-8] 協働プロジェクト(プロジェクト・りとり)

・BDP学校保健教育プロジェクト(バングラデシュ)

今年度は、「協働プロジェクト」の最初の活動として2010年度より開始された、バングラデシュの学校教育NGO・BDP(Basic Development Partners)との協働事業「学校保健教育プロジェクト」の2年目にあたる。保健教育担当の教員(対象校14、各校2～3名ずつ)に対するトレーニングを継続し、学校での保健教育カリキュラムを作成、実際に学校の時間割に保健教育の授業を入れられるように準備する。また、生徒の身体計測、健康診断(聴診)も定期的実施できるようにする。

インドネシア

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Feby Francis Parewa	男	35	看護師	GKST	Public Health Center(Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Mr. Frits Lexi Meinker Mojai	男	22	学生	GKST	SAM Ratulangi University	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Mr. Mardianus Tado'u	男	24	薬局スタッフ	GKST	Samratulangi University, Manado	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Mr. Panca D. Dese	男	43	看護主任	GKST	Nursing Program at Medical Faculty, Hasanuddin University	看護学修士	2007年7月 ~ 2013年2月
Ms. Alice Sumaila	女	29	看護師	GKST	Public Health Center(Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Aprilin Poakalose	女	27	看護師	GKST	STIFA Pelita Mas, Palu	薬学	2011年6月 ~ 2015年8月
Ms. Ita Oktaviaty Pasambaka	女	36	看護師	GKST	Public Health Center(Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Linije Tambayong	女	35	看護師	GKST	Public health Center(Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Mastrina Renias Mentiri	女	47	看護師	GKST	Public health Center(Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Yuliana Najaya	女	24	看護師	GKST	Stikes Husada Mandiri, Poso	助産学	2011年6月 ~ 2014年9月
Ms. Ferderika Amiran	女	29	看護師	GKST	The Institute of Medical Science	看護学	2009年9月 ~ 2011年8月
Ms. Katrina Nono	女	31	薬局スタッフ	ICAHS Lindimara Hospital	Politeknik Kesehatan Kupang	薬学	2010年6月 ~ 2013年5月
Ms. Yety Wahyu Kirniawati	女	32	看護師	ICAHS Mardi Waloeja Hospital	Politeknik Kesehatan dr. Soepraoen Hospital	助産学	2008年9月 ~ 2011年8月
Ms. Christin Kusumawati	女	34	看護師	ICHAS William Booth Hospital	STIKES Hang Tuah, Surabaya	看護学	2010年9月 ~ 2013年3月

ネパール

Dr. Min Bahadur Thapa	男	39	医師	Anandaban Hospital	Kathmandu University	放射線診療	2010年9月 ~ 2013年8月
Mr. Jaganath Maharjan	男	39	理学療法士助手	Anandaban Hospital	Doon Paramedical College and Hospital	理学療法	2010年7月 ~ 2015年1月
Mr. Maheshwor Gosain	男	30	医学生	HDCS	Nepalgunj Medical College	医学	2007年2月 ~ 2011年8月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Dr. Kalebu Kumar Budha	男	27	医師	HDCS Chaurjahari Hospital	Institute of Medicine, Tribhuvan University	内科診療	2011年3月～2014年3月
Mr. Chandra Giri	男	40	薬局スタッフ	HDCS Chaurjahari Hospital	Kailpal Health Institution	薬学	2011年9月～2014年8月
Mr. Tilak Bahadur Kumar	男	31	地域保健・公衆衛生	HDCS Chaurjahari Hospital	Kaupal Health Academy, Nepalgunj Bank Nepal	公衆衛生	2010年9月～2013年8月
Ms. Shanti Jirel	女	27	准助産師	HDCS Chaurjahari Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2011年9月～2014年8月
Mr. Amar Singh Bahat	男	23	検査技師助手	HDCS TEAM Hospital	Kalitpur Institution of Health Science	放射線学	2010年9月～2012年8月
Mr. David Thagunna	男	27	検査技師	HDCS TEAM Hospital	Bharatpur School of Health Sciences	臨床検査	2009年1月～2012年11月
Ms. Karma Rei	女	29	看護師	HDCS TEAM Hospital	Yeti Health Science Academy	看護学	2011年1月～2012年12月
Ms. Kalpana Siwal	女	31	看護教師	Lalitpur Nursing Campus	Tribhuvan University, Institute of Medicine	看護学修士(女性保健)	2010年7月～2012年6月
Ms. Ratna Kumari Maharajan	女	42	看護師	Patan Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学修士	2010年7月～2012年6月
Ms. Apsara Gurung	女	23	准看護師	Tansen Nursing School	Assistant Clinical Instructor	看護学	2010年8月～2012年7月
Ms. Bimala Karti	女	41	准助産師	Tansen Nursing School	Tansen Nursing School	看護学	2010年9月～2013年8月
Ms. Monima Chaudhary	女	22	教師	Tikapur Christiya Mandali Church	Nepalgunj Nursing Campus	看護学	2009年12月～2012年11月
Mr. Ankit Raj Gurung	男	21	学生	UMN	Nepalgunj Medical College	医学	2009年8月～2013年2月
Ms. Sharmaya Tamang	女	32	地域保健・公衆衛生	UMN	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2011年11月～2013年10月
Mr. Bikram Thapa Chhetri	男	36	理学療法士助手	UMN Tansen Mission Hospital	Dhulikhel Medical Institute, Katmandu Univ.	理学療法	2009年7月～2011年11月
Ms. Sumitra Karki	女	30	看護師	UMN Tansen Mission Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2009年12月～2011年11月
Ms. Kumari Maya Thapa Magar	女	45	助産師	UMN Tansen Mission Hospital	Tansen Ursint School	看護学	2009年10月～2012年9月
Ms. Nirmala Sherestha	女	29	准看護師	UMN Tansen Mission Hospital	Tansen Nursing School	看護学	2009年9月～2011年8月

バングラデシュ

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Chanpa Das	女	19	無職		Christian Hospital Chandraghona	助産学	2010年1月 ~ 2012年12月
Mr. Dipok Soren	男	25	その他	CCH	CDD	理学療法	2011年4月 ~ 2011年7月
Ms. Khanam Monira	女	33	フリーランス ライター	CCH	Community Handicap and Disability Resource Person	理学療法	2011年4月 ~ 2011年10月

インド

Mr. David Livingstone J.	男	18	無職	Christian Fellowship Hospital	C.S.I. College of Dental Science and Research	歯学	2009年9月 ~ 2014年8月
Mr. Joshua Paul	男	18	学生	Christian Fellowship Hospital	Christian Medical College, Vellore	臨床検査技術	2010年7月 ~ 2014年6月
Ms. Mariammal Andavan	女	17	学生	Christian Fellowship Hospital	Sankaralingam Bhuvanawari College of Pharmacy	薬学	2010年7月 ~ 2012年6月
Ms. Paripooranam Pounraj	女	19	無職	Christian Fellowship Hospital	Christian Fellowship Hospital	診療記録管理	2009年7月 ~ 2011年6月
Ms. Sathiya Priya Muniandi	女	18	無職	Christian Fellowship Hospital	Sarah Nursing College	看護学	2009年9月 ~ 2013年8月

ウガンダ

Mr. Gideon Bwambale	男	31	看護助手	Kinyamukonyo Health Centre III, South Rwenzori diocese PHC	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ~ 2013年4月
Ms. Nowerina Biira	女	22	看護ボランティア	Lugazi Mission HC	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護学	2009年5月 ~ 2011年11月
Mr. Lubaale Robert Musasizi	男	25	検査技師助手	Nabugando Health Centre	Worldwide University College	HIV/AIDSカウンセ リング	2010年9月 ~ 2012年8月
Ms. Gladys Bwambare Kabugho	女	49	助産師	Reach Out	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ~ 2011年11月
Ms. Keronyai Pauline Picho	女	30	看護師	UPMB Amai Community Hospital	Aga Khan University Uganda	看護学	2009年8月 ~ 2012年2月
Mr. Olwa James Kamara	男	52	クリニックリーダー	UPMB Bwindi Community Hospital	Kampala International University	臨床医学・地域 保健	2008年4月 ~ 2011年3月
Ms. Uwimbabazi Sarah	女	24	准看護師	UPMB Cure (Children's Hospital of Uganda)	Kabale School of Comprehensive Nursing	看護学	2010年5月 ~ 2011年11月
Mr. Davis Makubuya	男	26	検査助手		Medical Laboratory Training School, Jinja	臨床検査技術	2009年10月 ~ 2011年9月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Scovia Kissa	女	26	看護師	UPMB Cure (Children's Hospital of Uganda)	Masaka School of Comprehensive Nursing	看護学	2010年5月 ~ 2011年11月
Mr. Masete Jacob Wepukhulu	男	27	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ~ 2011年11月
Mr. Nsumba S. Mark	男	26	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ~ 2011年11月
Ms. Immaculate Prosperia Naggulu	女	38	看護教師	UPMB Kiwoko Hospital	International Health Science University	看護学	2009年9月 ~ 2012年8月
Ms. Ritah Nabasumba	女	26	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ~ 2011年11月
Ms. Yiga Rehemah	女	36	看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2011年5月 ~ 2012年11月
Ms. Angokikin Hellen	女	31	准助産師	UPMB Kumi Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2011年5月 ~ 2012年11月
Ms. Edith Catherine Kasembere	女	36	准助産師	UPMB Mengo School of Nursing	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2010年5月 ~ 2011年11月
Mr. Muyanjanja Andrew	男	24	検査技師	UPMB Nateete Archdeaconry Mobile Clinic	Mbarara University of Science and Technology	臨床検査学	2010年8月 ~ 2012年7月
Mr. Kighoma Josphat	男	22	検査技師補助	UPMB Rwesande HC IV	Mengo Hospital Laboratory and School of Medical Laboratory Technology	臨床検査補助	2010年8月 ~ 2012年7月
Mr. Kabughu Phedrace	男	25	看護助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ~ 2012年11月
Ms. Kighina Mbambu Alice	女	30	検査技師助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kasese Institute of Health Science	臨床検査技術	2010年6月 ~ 2012年5月

タンザニア

Ms. Bertha John Makoye	女	21	看護助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2010年9月 ~ 2013年8月
Mr. Francis Fortune Tegete	男	24	学生	AOT Iputi Health Centre	Hubert Kairuki Memorial University	医学	2010年9月 ~ 2013年8月
Mr. Andrew Makoye Luhola	男	31	検査技師助手	AOT Kaliua Health Centre	Nkinga School of Health Laboratory Sciences	臨床検査補助	2010年8月 ~ 2012年7月
Mr. Joseph Kitilu Lutozi	男	28	インターン	AOT Kipalapala Dispensary	Kibaha Clinical Officer's Training College	医学	2010年9月 ~ 2013年8月
Sr. M. Magreth Peter Nyamizi	女	28	看護助手	AOT Kipalapala Dispensary	Dareda Nursing Training School	看護学・助産学	2009年9月 ~ 2012年8月
Ms. Devotha Tiho Mayombya	女	21	看護助手	AOT Lububu Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2010年9月 ~ 2013年8月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Mussa Ponda Mahela	男	29	学生	AOT Mwanzugwi Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学	2010年6月 ~ 2011年8月
Sr. Nyanzobe Christina Mathias	女	31	診療所受付・庶務	AOT Mwanzugwi Dispensary	Kolandoto Nurse Midwife Training Centre	看護学・助産学	2009年9月 ~ 2012年8月
Ms. Liberator Kabura	女	25	学生	AOT Ndala Hospital	Edgar Maranta School of Nursing	看護学	2009年9月 ~ 2012年8月
Ms. Maria Simon Mnimbo	女	23	看護助手	AOT Ndala Hospital	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2010年8月 ~ 2013年7月
Sr. Christina Njendela Mapunda	女	30	学生・シスター	AOT Ndala Hospital	Hubert Kairuki Memorial University	医学	2009年9月 ~ 2012年8月

4. 国内諸活動

[4-1] 国内活動全般

今年度は、会員増強に向けての取り組みとして、以下の活動を主に行う予定である。

(1) JOCS の活動を子どもへアピール

将来を担う日本の子どもたちに、アジア・アフリカの子どもたちのことを理解してもらうために、ワーカーの派遣地にいる子どもたちと日本の子どもを繋げる具体的な方策を、継続課題として協議していく。そのために必要であれば、学校に対してアンケートなどを行う。

(2) 地区 JOCS 活動支援：仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・播州・岡山・四国高知

各地区において、ワーカー活動報告会やチャリティコンサートなどの催し物が開催される予定である。また 2011 年度には第 7 回地区 JOCS 全体ミーティングを開催し、交流や意見交換を行う。現段階で予定されている今年度の地区のイベントは以下のとおりである。

4 月 9 日 京都 JOCS チャリティウォークソン 鴨川河川敷

5 月 28 日 神戸 JOCS のつどい（神戸栄光教会） 諏訪恵子ワーカー報告会

5 月 29 日 足利 JOCS のつどい（足利市民会館） 諏訪恵子ワーカー報告会

6 月 11 日 大阪 JOCS のつどい（大阪聖パウロ教会） 諏訪恵子ワーカー、山内章子ワーカー報告会

7 月 23 日 京都 JOCS チャリティコンサート（京都コンサートホール小ホール）

[4-2] ワーカー育成活動全般

今年度も、JOCS のワーカーの発掘・育成と、海外保健医療協力の芽を広く育てるために、育成プログラムを充実させていく。プログラムの対象者としては、現在考えている学生や就職して比較的早い時期の保健医療従事者だけではなく、さらに幅を拡げていきたい。現行プログラムの今年度開催は、スタディツアーを 1 回、海外保健医療協力セミナーを 1 回、海外保健医療勉強会を 4 回予定している。また海外保健医療勉強会の 1 回は、昨年引き続きフィールドでの一日勉強会を検討したい。南インドへのスタディツアーは次回で 7 回目となる。

現在予定しているプログラムは以下のとおり。

6 月 18 日（土）～19 日（日） 海外保健医療協力セミナー

7 月 29 日（金）～8 月 7 日（日） 南インドスタディツアー

適宜 海外保健医療勉強会

各プログラム参加者に JOCS とつながり続けてもらうため、ワーカー育成委員、海外担当主事、事務局担当が協働し、働きかけを行っていく。

[4-3] 東日本大震災被災者支援

2011年3月16日に開始した東日本大震災・被災者支援は、同月28日に仙台市内の避難所での医療活動から岩手県釜石地区での活動にシフトした。またJOCSは支援活動を支えるため、4月4日から4月30日まで、募金を行う。

JOCSは、他の医療系NGOが活動を終了した後の4か所の避難所での医療ニーズに応えるため、地元の病院と連携しながら、当面の活動を行っていく。活動には、帰国している青木盛パキスタンワーカーも加わる。

被災地は日々刻々と状況が変化している。いずれにせよ活動継続にあたっては、日本キリスト者医科連盟(JCMA)やキリスト教医療機関や関係諸団体との連絡を取りつつ、被災地のニーズに応える活動を続けながら、JOCSにとって今後どのような支援が求められているのか、また可能か(その限界も見据えながら)などを適宜協議していきたい。

なお、JOCSが初期段階で活動を共にした「日本基督教団東北教区被災者支援センター」は、長期的なスパンで徐々に宮城県北などの教会などと連携しつつ、支援を広げていっている。JOCSは、引き続き同センター及び仙台JOCSとも連絡を取りながら、求められる支援を続けていきたいと考えている。

[4-4] 広報全般

今年度も広報活動の充実を図り、会員増強に努める。具体的な活動は以下のとおり。

(1) 「みんなで生きる」の企画・編集

- ・ 隔月の偶数月の発行とし、16ページまたは20ページで、情報量にあわせてページの増減をしつつ編集を行う。
- ・ 今年度は、帰国したワーカーの活動の振り返りを特集とする機会が多くなるが、各号の内容を工夫して、読者の方々にワーカーの活動内容をわかりやすく伝えるよう努める。
- ・ 今年度も引き続き読者アンケートを行う。アンケート結果を参考にしつつ、必要があれば柔軟にレイアウトや編集内容などを検討し、より良い紙面づくりを継続する。
- ・ 子ども号の内容は時間をかけて企画する。発送先を再度確認し、子ども号の更なる活用を目指す。

(2) フォーラム

今年度は、50周年記念感謝礼拝でのブラザー・フランクのメッセージ、樋戸健次郎ワーカー・清水範子ワーカー・乾真理子短期ワーカー・宮尾陽一短期ワーカーの各活動報告書を掲載予定。4月29日のJOCS社員総会で配布する。

(3) ボランティアテックの活動

- ・ 2010年9月に東京で開催した「みんなで生きる」表紙展を、今年度はワーカー報告会や各地区JOCSのイベントに合わせて、各地で開催する予定。そのための準備を行う。
- ・ ワーカーの任地にフォトグラファを派遣し、ワーカーの活動記録、広報活動のための写真撮影を行う。
- ・ 定期的にミーティングを開催し、広報資料の充実に努める。

(4) ホームページ

今年度もコンテンツの充実を図る。特にブログやツイッターの更新を頻繁にし、これらのページを利用して JOCS のアピールを進めていきたい。

(5) 広報改革タスク

2010 年度に行った会員アンケートの結果とその分析を受けて、広報の重点課題を取りまとめた。今年度はそれらに取り組み、2011 年 9 月頃に一度ミーティングを開催し、進捗状況の確認（必要であれば軌道修正）を行う。また、2011 年度末に小規模のアンケートを行い、目標達成度を確認する予定である。

(6) その他

JOCS のパンフレット、募金の趣意書など、ボランティアの方々の力を借りながら、より良いものが作れるよう、一層の努力をしていく。

[4-5] 募金

寄付収入は、JOCS 収入全体の約 6 割を占め、活動を推進するための重要な資金である。今年度は 4 人のワーカーが帰国し報告会を行うため、この機会を用いて、夏期、年末の募金時期のみならず年間を通して活動をアピールしていく。また公益社団法人への移行を受け、寄付控除が受けられるようになるため、その旨を含めて広報活動を行っていく。クレジットカードによる募金が、さらに広く知られるよう、ホームページなどを通してお知らせをしていく。例年同様に夏期募金は「みんなで生きる」6・7月号に募金趣意書（払込用紙込み）を封入する。年末募金ではより詳細を記した募金趣意書と払込用紙を封書にて発送する。いずれも送付先は社員、会員、寄付や切手で協力をいただいている方々、教会や学校、保育園、幼稚園、友の会など。2011 年度の募金目標額は 1 億 720 万円とする。

[4-6] 使用済み切手運動

2011 年度は、奨学金支援を中心にアピールを行い、切手収集活動をさらに強化したい。併せてホームページの内容改訂とパンフレット類などの、広報ツールを作りなおす予定である。

予定 4 月 29（金）～5 月 1 日（日） 浅草スタンプショー

9 月（日程は未定）高知スタンプショー 日程未定

10 月 15 日～16 日 広島スタンプショー

2012 年 2 月（予定）国際切手まつり in 山口

切手タスク：

日程は未定だが、使用済み切手運動のアピールとワーカー報告会を兼ねた形でイベント、あるいはキャラバンの形で行う予定。

[4-7] 関西事務局バザー

今年度は5月14日(土)に大阪聖パウロ教会にて第17回関西事務局バザーを開催する。今回は一昨年のバザー同様、「切手を持ってバザーに行こう」をキャッチフレーズに、昨年チラシ同様、両面カラー印刷にする。物品販売、食べ物コーナーなど楽しいイベントを企画している。

[4-8] 50周年記念事業

2010年度に実施した50周年記念事業プログラムに引き続き、2011年度は以下の事業を実施する予定である。

- ① 50周年記念誌：今年度内の発行を目指して、制作を進めている。
- ② 50周年記念映画会：9月16日に日本橋公会堂で開催、「父と暮らせば」を上映する予定。
- ③ 50周年記念スタディツアー：2012年3月頃に、牧師や学校教師を対象としたバンングラデシュのツアーを実施予定。
- ④ 「みんなで生きる」表紙写真展：昨年度に続き、各地で写真展を開催する予定。

5. 運営会議

[5-1] 社員総会

第50回社員定期総会を、日本キリスト教会館にて2011年4月29日(金・祝日)に開催する。

[5-2] 理事会

公益社団法人への移行に伴い、理事会と常任理事会を一本化して新しい理事会体制となった。理事の定数を減らし、従来の常任理事会と同様に年11回の理事会を開催する。また年3回、JOCSの中長期的な運営方針や事業のあり方を検討する運営協議会を開催する。

今年度の理事ならびに監事は次のとおり。(敬称略)

小島 莊明 (会長)	畑野研太郎 (常務理事)	大江 浩 (理事・総主事)
川口恭子 (理事・海外担当主事)		島田 恒 (理事)
高梨愛子 (理事)	中 畠裕一 (理事)	仁科晴弘 (理事)
榛木恵子 (理事)		
小澤英輔 (監事)	辻本嘉助 (監事)	

[5-3] 委員会

< 関西地区活動委員会 >

委員長：船戸正久

委員：大谷 透、彼谷廣子、加輪上敏彦、酒井照子、島田 恒、高谷泰市、畑野めぐみ、
船戸正久、和田 浩

列席者：中村満子（神戸 JOCS）

- ① 委員会は2ヵ月に一度の頻度で、JOCS 関西事務局にて開催予定。
- ② 関西 JOCS2011 の集いに関しては、今後委員会で話し合っていく。現在は未定。
- ③ バザーは5月14日（土）大阪聖パウロ教会にて開催予定。

<研修生・奨学金委員会>

委員長：柳澤理子

委員：小宅泰郎、加輪上敏彦、長尾真理、細谷たき子、宮城航一、宮崎 雅

① 奨学金支給対象者の決定

JOCS 海外研修生奨学金規定に則り、今後も地域の保健医療向上のために草の根レベルで
尽力すると思われる奨学生を優先し、現地のニーズに適切に応えられるような選考を行う。

② フォローアップの強化

委員と事務局とが協力して、できる限り奨学金支給者を訪問し、奨学生の所属団体と話し
合うことにより、奨学金の適正な使用とその効果についての評価を実施する。

③ 奨学金活動の広報

ワーカー派遣に比べ、奨学金支援は会員・寄付者の方々にあまりよく知られていない感が
ある。そこで本年度も、機会をとらえて会報やホームページなどで奨学金活動を支援者にア
ピールするとともに、対外的な広報についても検討していきたい。

④ 奨学金制度の定期的な検証

奨学金の適正規模・支給額の妥当性・新たな関連団体の承認などについては、引き続き検
討していく。

<広報委員会>

委員長：宇山 進

委員：柏木牧子、須賀真弓、西谷誠子

今年度も広報活動の充実を図り、会員増強に努める。

以下の活動を行う。詳細は[4-3] 広報全般（16～17 ページ）を参照。

- ① 「みんなで生きる」の企画・編集
- ② フォーラム発行
- ③ ボランティアテックの活動（ボランティアフォトグラファなどの派遣）
- ④ ホームページの充実

<国内活動委員会>

委員長：川崎 豊

委員：新井ななえ、有田憲一郎、小野志乃、高柳昌久、仁科晴弘、羽山直人

継続課題である現地の子どもと日本の子どもを繋げる具体的な方策を決定し、理事会に結果を

報告する。

今年度は地区 JOCS 全体ミーティングを開催する年にあたっているので、日程・開催場所・ミーティング内容などを検討する。

会員増強に向けての取り組みを継続審議していく。

<財務委員会>

委員長：佐藤 光

委員：柏 明史、中嶋裕一

当委員会の通常の検討事項である予算執行に関する協議の他に、今後 10 年間の財政見通しおよび事業モデル案の検討を行う。また公益社団法人の認定により税制優遇措置が得られることを協力者へ周知するチラシを作成し、寄付収入の拡大を行うことなどの協議、提案を理事会に対して行う。

<ワーカー育成委員会>

委員長：大友 宣

委員：田代順子、土井直彦、野崎威功真、山 嘉信、山本眞美子

今年度は、大幅に見なおした海外保健医療セミナーが開催される予定であり、充実したプログラムとしたい。また、2012 年 3 月に 50 周年記念スタディツアーを開催予定である。学生や就職して比較的早い時期の保健医療従事者だけではなく、教育関係者もプログラムの対象としていき、育成対象者を拡大させていきたい。

現行プログラムの 2011 年度実施については、[4-2] ワーカー育成活動全般（15 ページ）を参照。

<ワーカー派遣委員会>

委員長：植松 功

委員：石井光子、石田 武、内坂 徹、大友 宣、小宅泰郎

- ① 「JOCS 今後 5 年間の方向性」に沿った派遣候補地の開拓に努め、適宜、ワーカー派遣要請書の検討を行う。
- ② ワーカー志願者の面接を行う。

[5-4] 公益社団法人への移行

2011 年 4 月 1 日付で、公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会として登記をする。公益社団法人は、寄付優遇の対象となる「特定公益増進法人」に該当し、当会への寄付は所得控除を受けられるようになった。それに伴い、パンフレット、領収証発行システムなどの変更をしていく。新公益法人制度による厳しい公益性の基準を満たしていると認定されたことをアピールしていきたい。

[5-5] 評価

(1) 活動終了前レビュー

以下のワーカーの任期終了に先立ち、レビューを行う予定である。

- ・ 岩本直美ワーカー 第四期 2011年6月

(2) 自記式アンケート

派遣後1年毎に行う自記式アンケートを以下のワーカーに対して行う。

- ・ 宮川眞一ワーカー 2年目(第二期) 2011年8月
- ・ 倉辻忠俊シニアワーカー 1年目 2012年1月

6. 事務局

＜総主事 大江 浩＞

2011年度、事務局の主な動きは下記のとおりである。

第1に、新しい5カ年計画(11年度～)は、「今後5年間の方向性」(～10年度)の理念を礎として、タスクによるアクションプランの策定と理事会での検討を踏まえて具体化していく予定である。事務局は、その過程における実務的な役割を担い、実施につなげていきたい。

第2に、4カ国へ延べ9名(短期・シニア、及びフェロー期間中含む)の派遣にあたり、ワーカーがより充実した活動が行えるようサポートにベストを尽くしたい。上半期は、諏訪・山内両ワーカー、下半期は、細井・岩本両ワーカーの報告会が各地で開催される。多くの新しい出会いが生まれ、また会員獲得にもつながるよう、周到な準備と対応を行っていききたい。

第3に、年間予算約1,000万円という奨学金支援事業は、JOCSの海外事業において、ワーカー派遣と並ぶ「重要な柱」である。事務処理のみならず、現地モニタリングなどを通して成果を確認していききたい。また50周年DVDで示された奨学金支援の大切さをより広く知っていただくよう努力していききたい。

第4に、協働プロジェクト(プロジェクト・りとる)の最初の活動であるバングラデシュでの学校保健教育(2010年度～)は2年目を迎える。子どもたちの健康意識の向上と保健行動の改善を目指して、協力団体であり主体となるBDPと密に連絡を取り、担当職員が定期的に訪問をしながら、計画を推進していききたい。

第5に、4月1日にスタートした公益社団法人は、新理事会の発足や運営協議会の開催、新会計システムの導入他、組織のガバナンスから事業の運営に至るまで多面的な対応が必要となる。また、広報媒体の刷新や税の優遇措置が適用される団体としての事務処理、加えて新定款に伴う基本方針と実施要綱の改訂も行わねばならない。引き続き一連の諸手続を滞りなく進めていききたい。

なお、昨年度より、「公益認定に関する国際協力NGO連絡会」(JANIC正会員ワーキンググループ)のメンバーとなったが、認定後も様々な実務が要求されるため、これからも連絡会に参加し活動していききたい。

第6に、昨年度に「広報改革タスク」が実施したアンケートの分析を生かし、より効果的な広報活動を行っていくための戦略作りと計画実施へつなげていきたい。

第7に、財政面での最優先課題は、会員増強・寄付拡大である。50周年募金趣意書、教会・学校・諸団体への訪問を行うと共に、「公益社団法人」移行後のアピールに力を注いでいきたい。

また中長期的な財政予測に基づき、事業のあり方を考え、財政の健全化を目指していきたい。

第8に、従来どおり、国際協力 NGO センター (JANIC)・関西 NGO 協議会・全国障害分野 NGO 連絡会・カンボジア市民フォーラムなどのメンバーとして、ネットワーク活動に参画していきたい。

最後に、事務局は「新しい50年」へ歩みだす JOCS の働きを支えると共に、会員の方々とアジア・アフリカの現場をつなぐ「国内ワーカー」としての役割を担っています。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

JOCS 総主事 大江 浩

<スタッフ>

総主事 大江 浩

海外担当主事 川口恭子

東京事務局 名取智子、大久保奈緒、小池宏美、高橋淳子、森田真実子、山下諭子、山中 信

関西事務局 渋谷理香、久家郁子、河野智恵